KENWOOD

オーディオ ビデオサラウンドレシーバー

KRF-V3030D

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

本説明書の他に、取扱説明書・別冊『リモコン操作編』が付属されています。
確実に操作するため、必ず別冊の内容もお読みの上ご使用ください。

付属のリモコンについて(RC-R0809)

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにも別冊のリモコンの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

B60-4592-00 00 (MA) (J) YG 9909

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、その他、リモコン操作編、の4つの章に分かれています。

準備編
安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編
本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

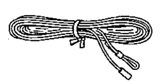
その他
故障と思われる症状ですが…、定格などを示してあります。

リモコン操作編(別冊)
他の機種をリモコン操作するためのクイックスタートガイドをはじめ、リモコン操作の方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器(テレビやビデオ、LDプレーヤー、CDプレーヤー等)が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

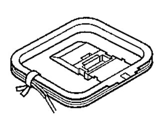
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

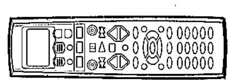
FM 室内アンテナ(1本)



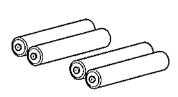
AM ループアンテナ(1個)



リモートコントロールユニット(1個)



リモコン用単3乾電池(4本)



本機の特長

多彩なホームシアター機能
本機には、ご家庭で映像ソフトを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。 →24

DOLBY PRO LOGIC & DOLBY 3 STEREO
DOLBY SURROUND マークのついた映像ソフトを、映画館と同じような音響効果で再現するサラウンドシステムです。
専用の回路を使用することにより、フロント、センター、サラウンドの音声信号をコントロールします。
また、DOLBY 3 STEREOは、フロント、センタースピーカーだけを使用しているときにサラウンド成分の信号をフロントスピーカーにふり分けます。

DOLBY DIGITAL (AC-3)
ドルビーデジタル(AC-3)モードでは、ドルビー デジタル(AC-3)フォーマットのデジタル信号の入力を、デジタルサラウンドで楽しむことができます。DOLBY DIGITAL (AC-3)フォーマットでは、最大5.1チャンネルのデジタル信号が独立して入力されるので、従来のドルビーサラウンドに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。

DTS (Digital Theater System)
DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dts マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音に厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサウンドが特長です。

SRS Circle Surround (●)CS™ (マルチチャンネル再生)
SRS Circle Surroundは、ステレオ2チャンネルのソースを、DTSやドルビーサラウンドのように、マルチチャンネル再生をするシステムです。
CDなど通常ステレオ2チャンネルのソースを、お手持ちのマルチスピーカー(フロント、センター、サラウンドスピーカーなど)で再生して楽しむことができます。

DSP サラウンドモード
DSP(デジタルシグナルプロセッサー)サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。

DVD6チャンネル入力
本機はDVD6チャンネル入力に対応しています。お手持ちのDVDプレーヤーがDVD6チャンネル出力に対応している場合は、DVD6チャンネル接続をすることによって、より効果的なサラウンドをお楽しみいただけます。

LCD付きユニバーサルIR(赤外線)リモコン
本機に付属しているリモコンで、本機に接続したオーディオやビデオ機器の操作もできます。簡単な設定手順で接続した機器を登録できます。LCD(液晶表示)によって、操作手順や、リモコンの状態がわかりやすく操作できます。

マクロプレイ
本機のリモコンで操作できる内容を登録しておくことができます。LDプレーヤーを再生するとき、ビデオデッキを再生するときなど、目的にあわせてあらかじめ操作内容を設定しておくと、リモコンのキーを押すだけで、関連機器の電源オンや入力の選択などの基本操作を自動的に行うことができます。(マクロプレイに機器の操作を登録するときは、お手持ちの機器のリモコンのセットアップコードを登録しておく必要があります。)

セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

結露にご注意

本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴(露)が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。
このようなときには、本機の電源を入れた状態で、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。

次のような状態のときは、特に結露にご注意ください。
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋など。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



目次

⚠ マークのついている頁は安全確保のために必ずお読みください。

安全上のご注意

⚠ この頁は、感電や火災からあなたを守るため、ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

絵表示について

この取扱説明書(安全編)では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

⚠ **警告**　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例


△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。


⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。


●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

⚠警告

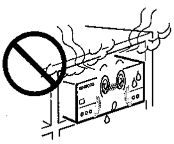
交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。
指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

放熱に注意

設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですので、ふさがないようにご注意ください。

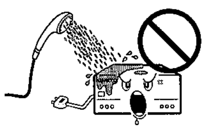
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭い所に押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。



通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

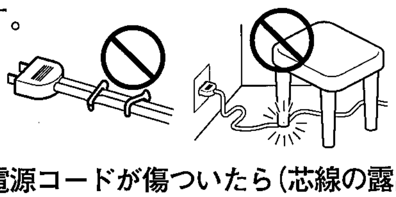
風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

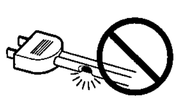


電源コードの取扱い

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

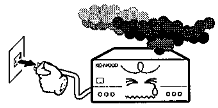


電源コードが傷ついたら(芯線の露出、断線など)修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



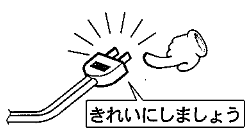
異常が起きた場合は

煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。



電源プラグは清潔に

電源プラグの刃および刃の付近に埃や金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス拠点にご依頼ください。

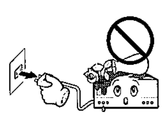


機器の内部に水や異物を入れない

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

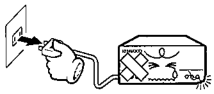
内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、 点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



⚠警告

落下した機器は使わない

機器を落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

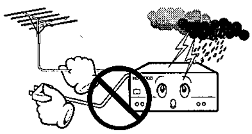


電池は放置しない

電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

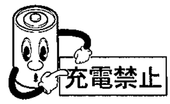
雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。



乾電池は充電しない

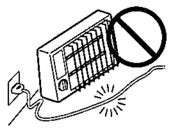
乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。



⚠注意

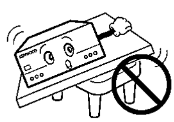
電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



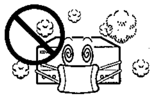
不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



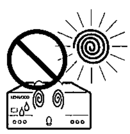
湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



温度の高い場所には置かない

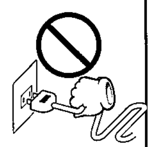
窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

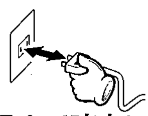


電源プラグの抜き差しは

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。





電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと発熱したり埃が付着して火災の原因となることがあります。
また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

長期間使用しないときは

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

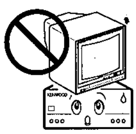
⚠注意

指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

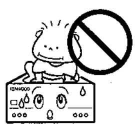


アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

レーザー光源はのぞかない

レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

ひび割れディスクは使わない

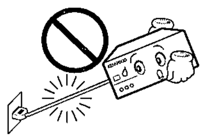
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

音量に気をつけて

はじめに音量(ボリューム)を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動させる際は

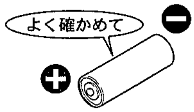
移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"-"の向き)に注意し、表示通りに入れてください。



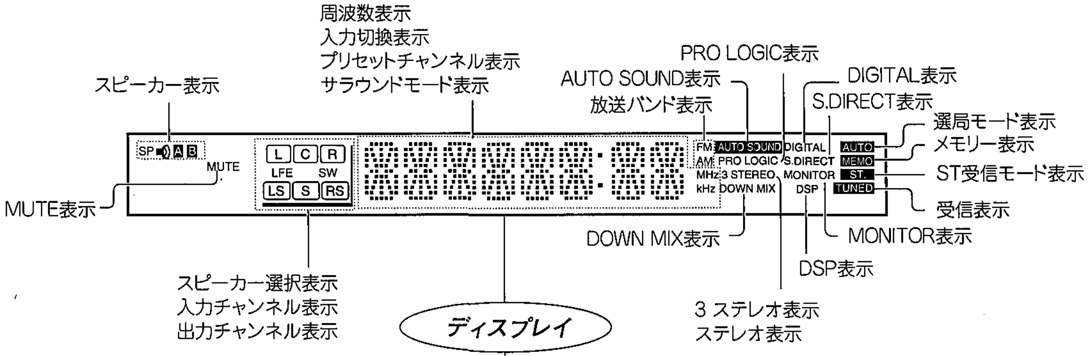
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

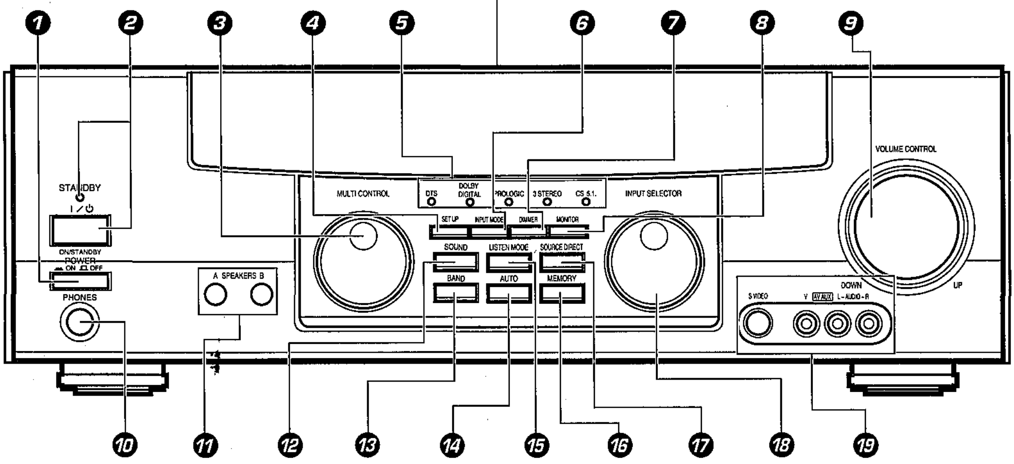
お手入れの際は

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。もよりの販売店、またはケンウッド営業所に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

各部のなまえと働き





❶ **POWERキー** →17
主電源のオン／オフを切り換えます。

❷ **ON/STANDBY(I/⏻)キー** →17
主電源がオンのとき、スタンバイ状態のオン／オフを切り換えます。
STANDBYインジケーター
スタンバイ状態のときに点灯します。

❸ **MULTI CONTROLつまみ**
いろいろな設定に使います。

❹ **SETUPキー** →17
サラウンド設定をするときに使います。

❺ **サラウンド表示**
DTS 表示 →26
DTSモードのときに点灯します。
DOLBY DIGITAL表示 →26
ドルビーデジタルモードのときに点灯します。
PRO LOGIC表示 →26
プロロジックモードのときに点灯します。
3 STEREO表示 →26
3ステレオモードのときに点灯します。
CS 5.1表示 →26
サークルサラウンドモードのときに点灯します。

❻ **INPUT MODEキー** →12
デジタル入力とアナログ入力を切り換えます。

❼ **DIMMERキー** →21 →28
ディスプレイの明るさを調節します。
録音モードを変えます。

❽ **MONITORキー** →20
カセットデッキの録音のモニターに使います。

❾ **VOLUME CONTROLつまみ** →19

❿ **PHONES端子** →20
ヘッドホンで聴くときに使います。

⓫ **SPEAKERS A/Bキー** →18
スピーカーのA、Bを切り換えます。

⓬ **SOUNDキー** →27
音質や音場を調節したいときに使います。

⓭ **BANDキー** →22
放送バンドを切り換えます。

⓮ **AUTOキー** →22
選局モードを選ぶときに使います。

⓯ **LISTEN MODEキー** →26
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓰ **MEMORYキー** →22
放送局を登録するときに使います。

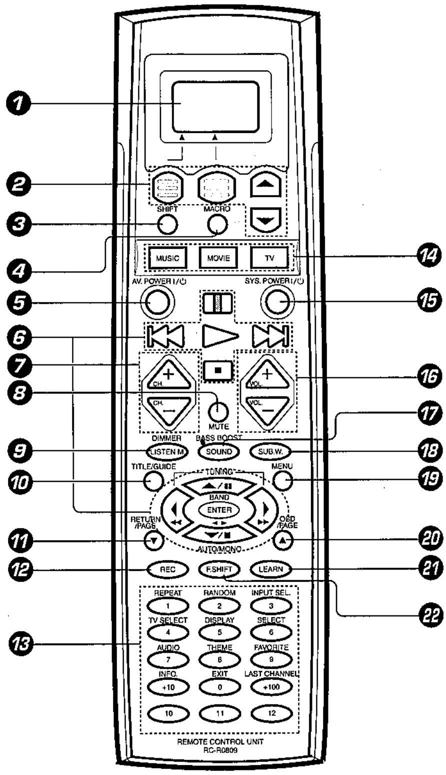
⓱ **SOURCE DIRECT キー** →20
ソースに近いピュアな音で聞けます。

⓲ **INPUT SELECTORつまみ** →19
入力を切り換えます。

⓳ **AV AUX(外部入力)端子** →13
外部機器を接続します。

スタンバイ状態について

本機のSTANDBY表示が点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンできます。



参照ページ "RC→10" はリモコン操作編(別冊)のページを示します。

本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をかっこ内に表記します。

❶ ディスプレイ **RC→1**
リモコンの操作の状態などを表示します。

❷ ディスプレイ操作キー **RC→1**
ディスプレイの操作をします。

❸ SHIFTキー **RC→5**
MUSICキーまたはMOVIEキーと組み合わせて、入力切換を変えずにリモコンの操作モードを変えるために使用します。

❹ MACROキー **RC→6**
一連の操作を自動的に行います(マクロプレイ)。

❺ AV. POWER(I/⏻)キー
各機器の電源をオン／オフします。

❻ MULTI CONTROLキー **RC→10**
登録した機器やシステム接続した機器の操作に使用します。

❼ CH +/ーキー **RC→11**
テレビなどのチャンネル操作をします。

❽ MUTEキー **→20**
音を一時的に消します。

❾ LISTEN M.キー **→26**
リッスンモードを選ぶときに使います。
DIMMERキー(F.SHIFTキーと組み合わせて使用します。) **→21→28**
ディスプレイの明るさを調節します。
REC MODEを選択します。

❿ TITLE/GUIDEキー **RC→11**
登録した機器の操作に使用します。

⓫ RETURN/PAGEキー **RC→11**
登録した機器の操作に使用します。

⓬ RECキー **RC→10**
登録した機器を操作します。

⓭ 数字キー／接続機器操作キー **RC→10**
接続している機器に付属のリモコンと一致する操作キーです。
キーの上側に印刷された操作を行うには、F.SHIFTキーを押したあとに数字キーを押します。利用できる操作は機器によって異なります。

⓮ MUSICキー **→19**
押すたびにオーディオ入力を選択し、オーディオ機器を操作するモードになります。
IRコードを登録すればリモコンから接続された機器を操作できるようになります。
MOVIEキー **→19**
押すたびにビデオ入力を選択し、ビデオ機器を操作するモードになります。
IRコードを登録すればリモコンから接続された機器を操作できるようになります。
TVキー
テレビなどを操作するときに使います。
このキーでは本機の入力切換は変わりません。

⓯ SYS. POWER(I/⏻)キー **→18**
本機の電源のオン／オフを切り換えます。

⓰ VOLUME +/ーキー **→19**
本機の音量を調節します。

⓱ SOUNDキー **→27**
音質や音場を調節したいときに使います。
BASS BOOSTキー(F.SHIFTキーと組み合わせて使用します。) **→19**
低音域を調整できる最大値に設定します。

⓲ SUB W.キー **→28**
VOLUME +/ーキーと組み合わせて使用し、サブウーファーの音量を調節します。

⓳ MENUキー **RC→11**
登録した機器の操作に使用します。

⓴ OSD/PAGEキー **RC→11**
登録した機器の操作に使用します。

㉑ LEARNキー **RC→8**
他機器のリモコンの操作を登録します。

㉒ F.SHIFTキー **→19 RC→10**
他のキーと組み合わせてキーの上側に印刷された機能を行います。また2秒以上押すとディスプレイのバックライトのオン／オフができます。

接続のしかた

⚠ 注意 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は下図のように行ってください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、"故障と思われる症状ですが…"を参照してマイコンをリセットしてください。 →29

⚠ 警告 *ACコンセント*

背面のACコンセントに接続する装置の消費電力の合計が指定値を超えないようにしてください。火災の原因になります。
電熱器具、ヘヤドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。
また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

DTSに関する注意事項

DTSデジタルサラウンドは独立した5.1チャンネルのデジタルオーディオフォーマットで、CD、LD、そしてDVDソフトウエアに使われていますが、たいていのCD、LD、DVDプレーヤーではデコードできませんし、また再生もできません。このため、DTSでエンコードされたソフトウエアを再生すると、CD、LD、またはDVDプレーヤーのアナログステレオ出力から雑音が出ることがあります。これらのアナログステレオ出力がアンプまたはレシーバーに直接接続されている場合にはご注意ください。
本機はDTSデジタルサラウンドデコーダーを搭載しています。

ご注意

1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生することがありますので、設置にご注意ください。

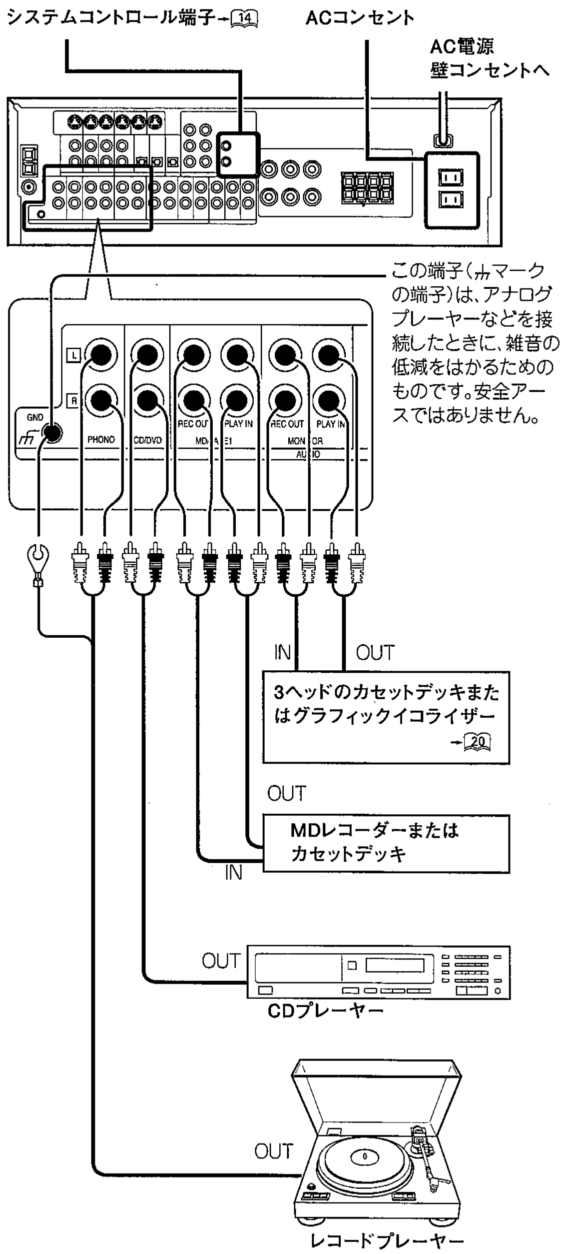
アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子(R側に接続)と白い端子(L側に接続)のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

⚠ 注意 *設置のご注意*

過熱による火災の原因となりますので、放熱の妨げになるものを天板の上に置かないでください。

オーディオ機器の接続



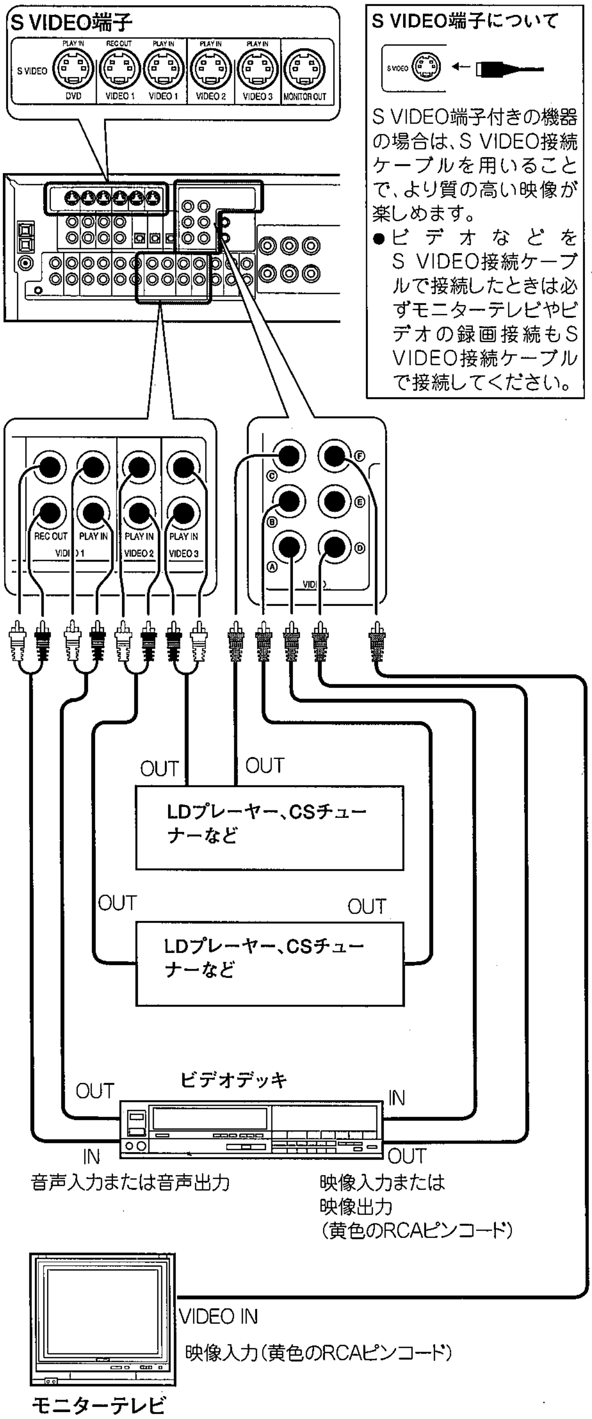
● 本機とCDプレーヤー、MDプレーヤーをデジタル接続をすることによって、より高音質な録音をすることができます。 →12

ビデオ機器の接続

S VIDEO端子について

S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

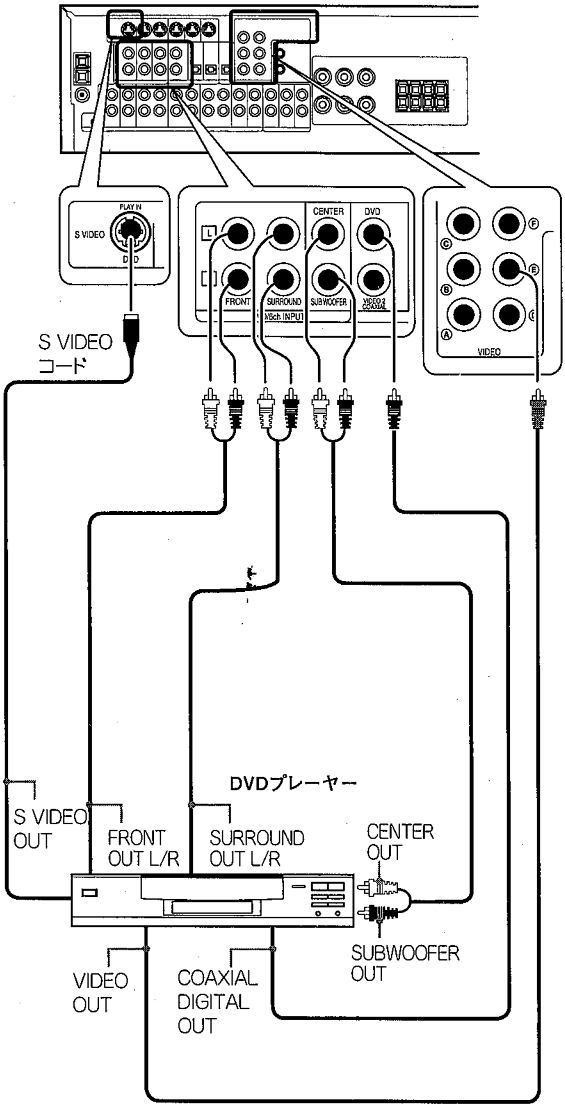
- ビデオなどをS VIDEO接続ケーブルで接続したときは必ずモニターテレビやビデオの録画接続もS VIDEO接続ケーブルで接続してください。



- LDプレーヤーなどデジタル音声出力のあるビデオ機器をお持ちの方はVIDEO2またはVIDEO3端子に接続してください。

DVDプレーヤーの接続（6チャンネル入力）

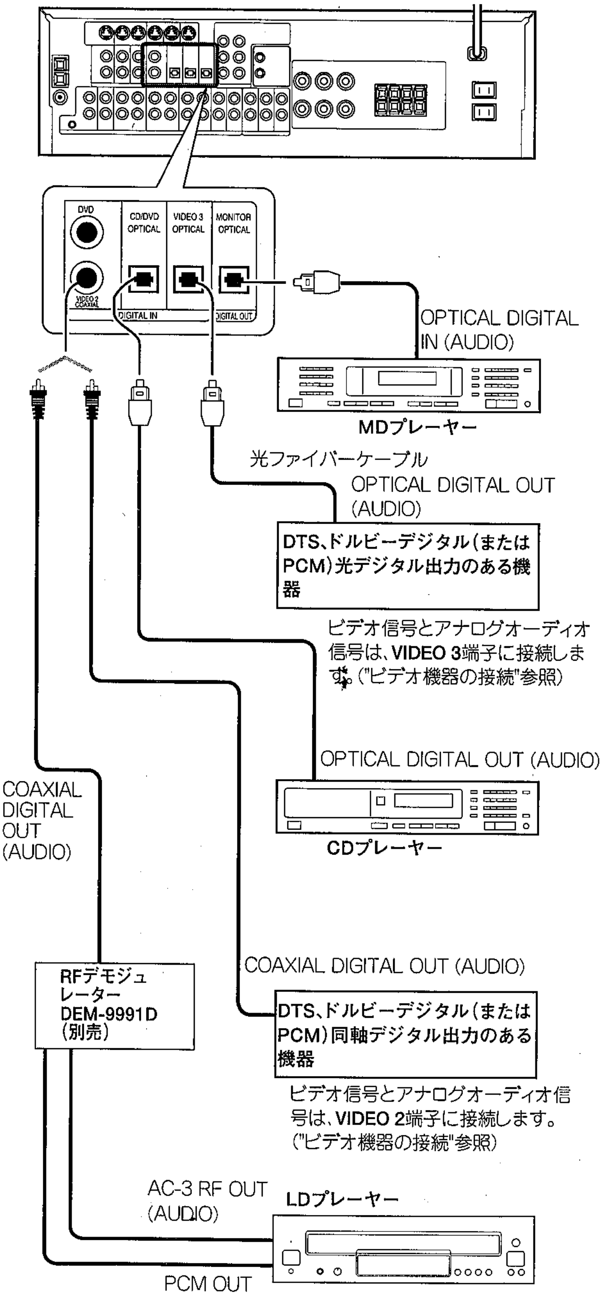
デジタル機器を接続したときは次ページの "インプットモードの設定" をよくお読みください。



- スピーカー出力をオフにしたい場合は、MUTE（ミュート）キーをご使用ください。

デジタル機器の接続

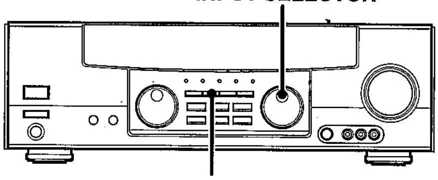
デジタル入力端子はドルビーデジタル(AC-3)、DTSまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル(AC-3)、DTSまたはPCM標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。
デジタル機器を接続したときは右記の "インプットモードの設定" をよくお読みください。



- DIGITAL RF OUT端子のあるLDプレーヤーを接続するには、LDプレーヤーを別売りのRFデモジュレーター(DEM-9991D)に接続します。それから、デモジュレーターのDIGITAL OUTを本機のDIGITAL IN端子に接続します。
- ビデオ信号とアナログオーディオ信号を**VIDEO 2**または**VIDEO 3**端子に接続します。("ビデオ機器の接続"参照 →11)

インプットモードの設定

CD、DVD、VIDEO 2、VIDEO 3の入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。
接続した機器をどちらの入力で再生するかをあらかじめ選んでおく必要があります。
工場出荷時は、CD、DVD、VIDEO2、VIDEO3はデジタル音声の信号が再生される設定になっています。
アナログ音声の信号を再生したいとき(ビデオデッキを接続したときやデジタル接続をしていないとき)は、接続した入力端子の入力モードをアナログに設定してください。
接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。



❶ 入力切換でCD、DVD、VIDEO 2またはVIDEO 3を選ぶ

❷ INPUT MODEキーを押す

押すたびに切り換わります。

DTSモードのとき(DTS表示が点灯)

① **D-AUTO** (デジタル入力、オートサウンド)
② **D-MANUAL** (デジタル入力、マニュアルサウンド)

DVD再生中のとき

① **D-AUTO** (デジタル入力、オートサウンド)
② **D-MANUAL** (デジタル入力、マニュアルサウンド)
③ **6CH INPT** (DVD6チャンネル入力)
④ **ANALOG** (アナログ入力、マニュアルサウンド)

上記以外のとき

① **D-AUTO** (デジタル入力、オートサウンド)
② **D-MANUAL** (デジタル入力、マニュアルサウンド)
③ **ANALOG** (アナログ入力、マニュアルサウンド)

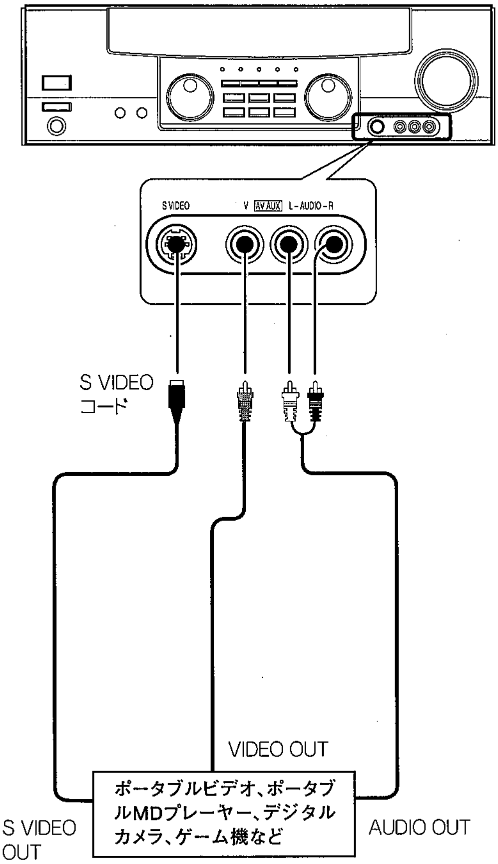
デジタル入力 :
DVD、CD、LDなどに記録されているデジタル音声信号を再生したいときに選びます。

アナログ入力 :
カセットテープ、ビデオテープ、レコードなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

オートサウンド :
オートサウンドモード(ディスプレイ内の**AUTO SOUND**インジケーター点灯)では、デジタルソース再生時に入力信号の種類(ドルビーデジタル、PCM、DTSなど)とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。工場出荷時はこの設定になっています。
現在選んでいるリッスンモードを固定したいときは**INPUT MODE**キーで " **D-MANUAL** " (マニュアルサウンド)を選んでください。
このとき、リッスンモードと再生信号の組み合わせによっては、ドルビーデジタル再生信号に合わせてリッスンモードを自動的に選択する場合があります。

本体前面のAUX IN 端子への接続

ポータブルビデオカメラやゲーム機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるAUX IN端子に接続します。ポータブルビデオカメラからダビングするときなどに使用すると便利です。



- AUX-IN端子に接続した機器は入力切り換えでAV AUXにすると再生できます。 →19
- ポータブルビデオカメラのほかに、ポータブルMDプレーヤーなどのオーディオ機器も接続することができます。その場合は、AUDIO L／R端子のみ接続してください。
- S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

アンテナの接続

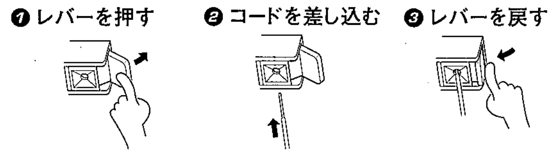
⚠ 注意 *屋外アンテナ設置上のご注意*

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

AMループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

AMアンテナ端子の接続のしかた



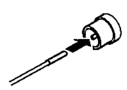
FM室内アンテナの接続

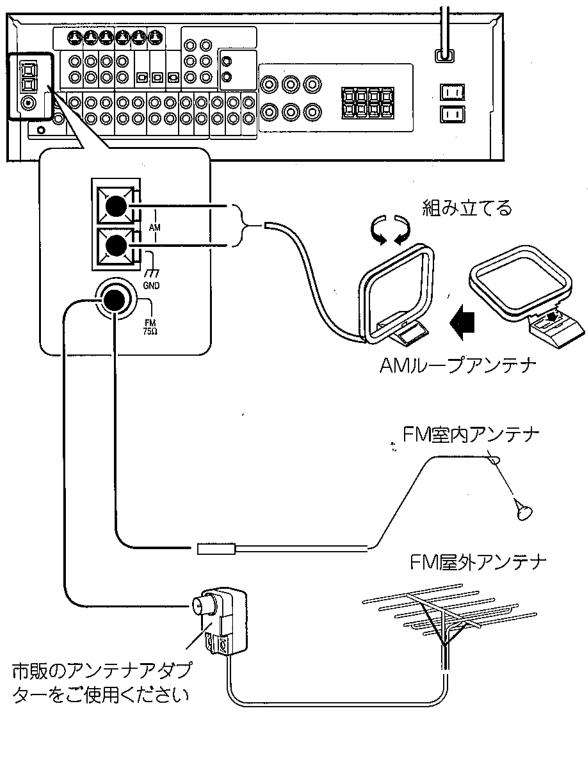
付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続したら、室内用アンテナは取り外してください。

FM屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω端子に接続します。

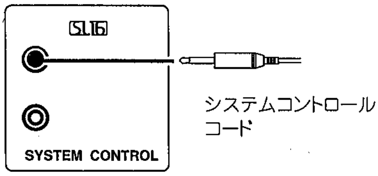
FMアンテナ端子の接続のしかた



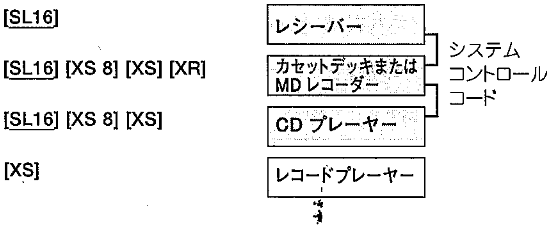


システムコントロール接続

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したとき、システムコントロールコードを接続することで、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。
ケンウッドのシステムコントロールには、2種類のモードがあります。**本機は SL16 のモードのみに対応しています。SL16 のモードに対応した機器と接続してください。**システムコントロール切り換えスイッチがある機器の場合は、SL16 に切り換えて接続してください。



接続例：[SL 16] モード接続
下線部が選ばれているシステムコントロールモードを示します。



- システムコントロールを使うには、各機器を各機器の端子に正しく接続してください。CDプレーヤーを使う場合はCD端子に、カセットデッキまたはMDレコーダーを使う場合は、MD/TAPE端子に接続してください。2台以上のCDプレーヤーを接続する場合などは、CD端子につないだ1台だけをシステムコントロールできます。
- CDプレーヤー、カセットデッキには、[SL 16] モードに対応している機器と対応していない機器があります。対応していない機器はシステムコントロール接続しないでください。
- MDレコーダーには、システムコントロールに対応していない機器があります。これらの機器はシステムコントロール接続はできません。

ご注意

1. [SL 16] 以外のモードとのシステム動作の組み合わせはできません。もし、このような組み合わせであった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
2. 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
3. システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。

MONITOR（モニター）端子に接続されたカセットデッキにはシステムコントロールコードはつながないでください。

システムコントロール動作について

リモートコントロール
本機に付属するシステムリモコンで、ソース機器を操作することができます。

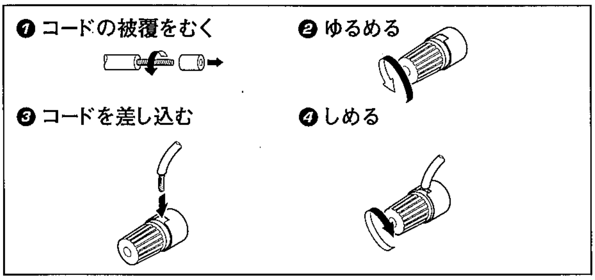
オートマチックオペレーション
ソース機器側の再生を始めると、本機の入力切換が自動的にその機器の入力切換に切り換わります。

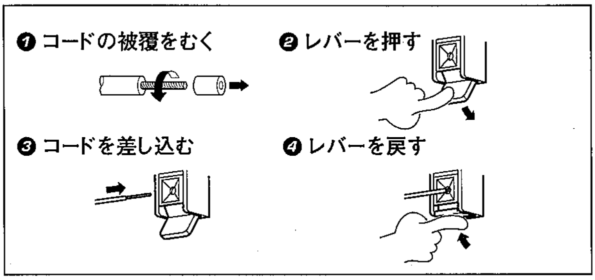
シンクロ録音
CD、MDを録音するときに、プレーヤーの再生を始めると、連動して録音をスタートさせることができます。

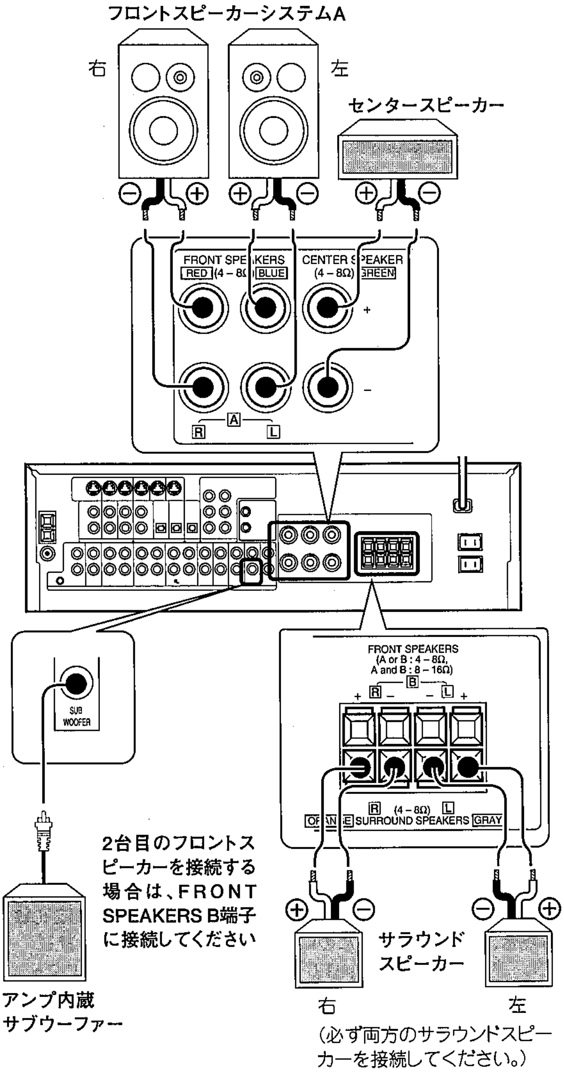
ケンウッドのオーディオ機器をセットアップコードを登録して操作できます

- システムコントロール接続が完了したら、必ず各機器のIRコードを登録してください。 RC-3
- リモコンで操作できるケンウッドのオーディオ機器で、システムコントロールに対応していないものをお持ちの場合は、IRコードを登録することで、システムコントロールコードを接続しなくても、本機に付属のリモコンでこれらの機器を操作することができます。IRコードを登録するには、"お手持ちの機器のIRコードを登録する"をご覧ください。 RC-3

スピーカーの接続

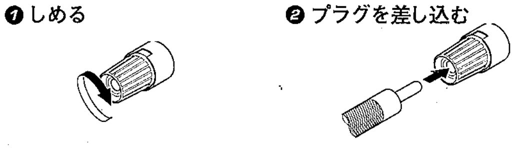






(必ず両方のサラウンドスピーカーを接続してください。)

バナナプラグの接続



●スピーカー端子を完全にしめていないと、音が出ない場合があります。

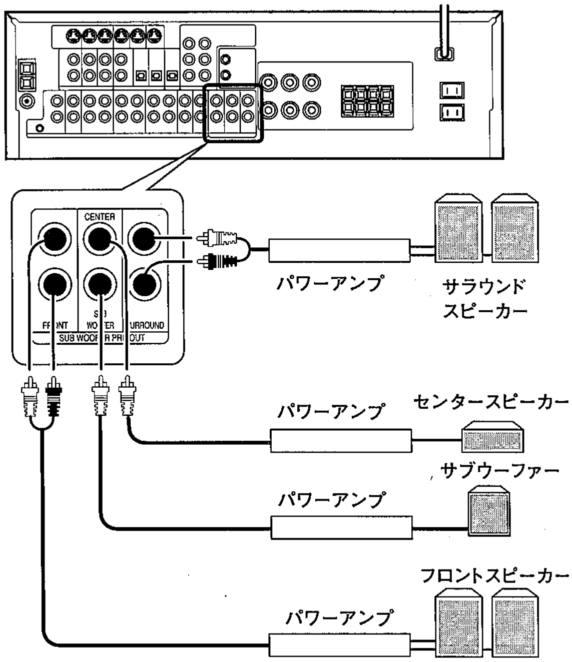
●スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
●左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー A または B	4-8 Ω
フロントスピーカー A と B	8-16 Ω
センタースピーカー	4-8 Ω
サラウンドスピーカー	4-8 Ω

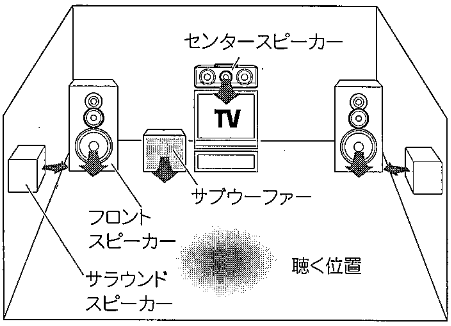
プリアウトの接続

本機はPRE OUT端子を備えています。これらの端子はいろいろな目的で使われますが、下記の例のようにパワーアンプを接続する必要があります。



●スピーカーコードをPRE OUT端子に接続しても、スピーカーからは音は出ません。
●PRE OUT端子を使用するときは、**SPEAKERS A**キーのみをオンにしてください。

サラウンドスピーカーの設置のしかた



フロントスピーカー　：前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。

センタースピーカー　：前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。ドルビー3ステレオモードには必ず必要です。

サラウンドスピーカー：座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

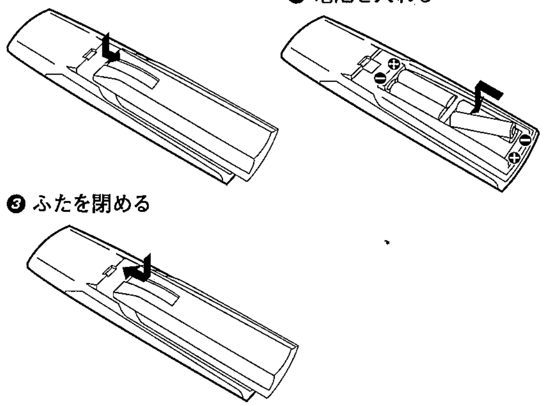
サブウーファー　　　：重低音を迫力ある音で再現します。

●すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適の再生を行います。 →17

リモコンの準備

電池を入れる

❶ ふたを開ける　❷ 電池を入れる　❸ ふたを閉める

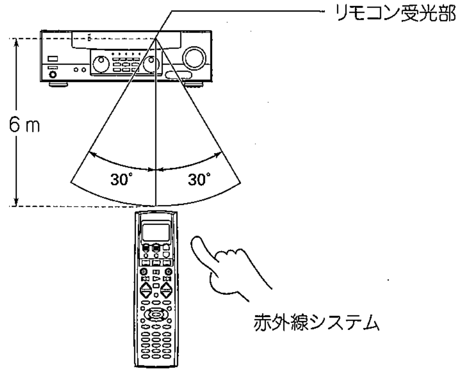


●単3アルカリ乾電池（LR6）4本を極性マークにしたがって入れる。

操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンのPOWER（パワー）キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

操作範囲のめやす



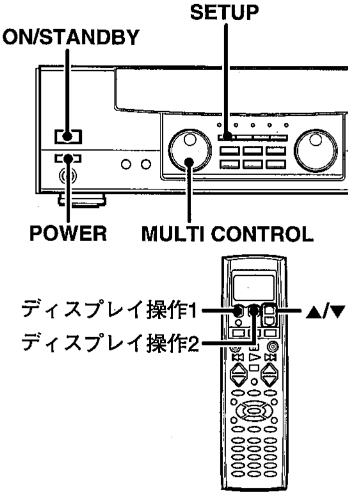
●リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意

1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式など）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

スピーカーの設定をする

工場出荷時は初期設定状態になっていますので、接続したスピーカー（サブウーファー、フロント、センター、サラウンド）の各種設定をします。



1 POWERキーとON/STANDBYキーを押して本機の電源をオンにする

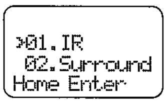
2 接続しているスピーカーを選ぶ

❶ **SETUPキーを押して、サブウーファーの設定表示（SUBW）にする**

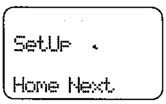


リモコンで操作をする場合

① 「01. IR」がリモコンのディスプレイに表示されるまでディスプレイ操作2［Menu］キーを押す



② ▲/▼キーを使って「02. Surround」を選び、ディスプレイ操作2［Enter］キーを押す



本体のディスプレイに（SUBW）が表示されます。

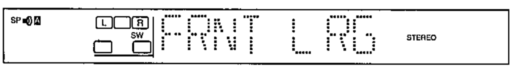
❷ **MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってサブウーファーの有無を選ぶ**

→ ① **SUBW YES：サブウーファーを接続したとき**
→ ② **SUBW NO ：サブウーファーを接続していないとき**

●SUBW NOを選んだ場合はフロントスピーカーは自動的にラージに設定されます。手順❺にすすんでください。

❸ **SETUPキー、またはディスプレイ操作2［Next］キーを押して確定させる**

●フロントスピーカーの設定表示（FRNT）になります。



❹ **MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってフロントスピーカーの設定をする**

→ ① **FRNT NML**（ノーマル）：普通のフロントスピーカーのとき
→ ② **FRNT LRG**（ラージ）：大きめのフロントスピーカーのとき

❺ **SETUPキー、またはディスプレイ操作2［Next］キーを押して確定させる**

●センタースピーカーの設定表示（CNTR）になります。

❻ **MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってセンタースピーカーの設定をする**

フロントスピーカーを "LRG" に設定したとき
→ ① **CNTR LRG**（ラージ）：大きめのセンタースピーカーのとき
② **CNTR NML**（ノーマル）：普通のセンタースピーカーのとき
→ ③ **CNTR NO** ：センタースピーカーを接続していないとき

フロントスピーカーを "NML" に設定したとき
→ ① **CNTR YES**：センタースピーカーを接続したとき
→ ② **CNTR NO** ：センタースピーカーを接続していないとき

❼ **SETUPキー、またはディスプレイ操作2［Next］キーを押して確定させる**

●サラウンドスピーカーの設定表示（SURR）になります。

❽ **MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってサラウンドスピーカーの設定をする**

センタースピーカーを "LRG" に設定したとき
→ ① **SURR LRG**（ラージ）：大きめのサラウンドスピーカーのとき
② **SURR NML**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき
→ ③ **SURR NO** ：サラウンドスピーカーを接続していないとき

センタースピーカー "LRG" 以外に設定したとき
→ ① **SURR YES**：サラウンドスピーカーを接続したとき
→ ② **SURR NO** ：サラウンドスピーカーを接続していないとき

❾ **SETUPキー、またはディスプレイ操作2［Next］キーを押して確定させる**

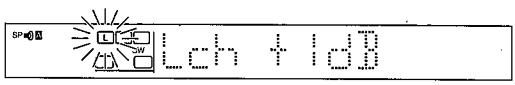
●スピーカーの音量レベルを調節するモードになります。
●3、4では選ばれたスピーカーで調整が必要なチャンネルのみ表示されます。

3 各スピーカーの音量レベルを調節する

実際の聴く位置でテストトーンを聴いて、各スピーカーが同じ音量レベルになるように調整します。

❶ **調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにMULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使って音量を調節する**

テストトーン出力中のチャンネルが点滅



以下の順でテストトーンが2秒ずつ切り換わります。
Lch → Cch → Rch → RS → LS → SW → Lch

●再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。 →27
●スピーカーを選び直すと、設定したスピーカーレベルはリセットされます。

❷ **SETUPキー、またはディスプレイ操作2［Next］キーを押す**

●スピーカーまでの距離を入力するモードになります。

次ページに続く

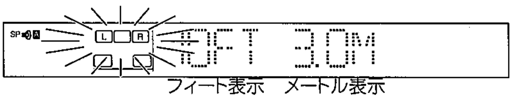
4 スピーカーまでの距離を入力する

❶ リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をはかる

メモしておきましょう
フロントスピーカーまで ______メートル
センタースピーカーまで ______メートル
サラウンドスピーカーまで ______メートル

❷ MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってフロントスピーカーまでの距離を選ぶ

調整するスピーカーが点滅



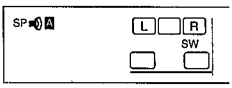
フィート表示　メートル表示

- 0.3m～9.0mまで、0.3mごとに調整できます。

❸ SETUPキー、またはディスプレイ操作2[Next]キーを押す

❹ ❷、❸を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する

❺ 入力表示に戻るとセットアップは終了です



すべてのスピーカーを選んだとき

- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているか確認してください。

インプットレベルの調整（アナログ再生時のみ）

アナログソースから入力されている信号が大きすぎるときは、インプットレベルを調節してください。

❶ INPUT SELECTORつまみで調整したい入力を選ぶ

- それぞれの入力およびMONITORオン時に、独立して入力レベルを記憶します。

❷ SOUNDキーを数回押して "INPUT" 表示にする

❸ MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってレベルを調整する



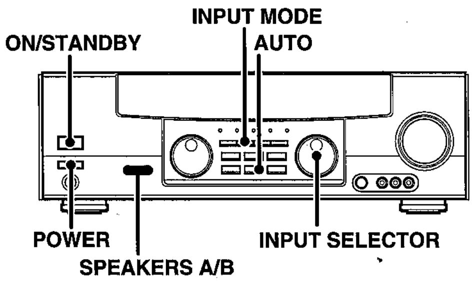
- 調整モードは約8秒間表示されます。
- インプットレベルは 0 ↔ −3 ↔ −6の3段階で調節できます（初期設定は0）。

❹ SOUNDキーを押して、入力表示に戻す

再生のしかた

再生をする前に

再生をする前に必要な準備をしておきましょう。



インプットモードの選択

CD、DVD、VIDEO 2またはVIDEO 3に接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号（デジタル入力またはアナログ入力）に合っていることを確認してください。→12

MD / TAPE の選択

MD/TAPE端子に接続した機器に入力の名称を合わせてください。工場出荷時は、"TAPE" になっていますので、"MD" に変更したいときは以下の操作を行ってください。

❶ INPUT SELECTOR で "MD/TAPE" を選ぶ

❷ AUTOキーを2秒以上押し続ける

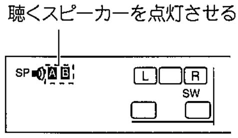
- 入力表示が "MD" に変わります。
- 元の表示に戻したいときは、同じ操作を行ってください。

スピーカーシステムの選択

SPEAKERS A または Bキーを押して聴きたいスピーカーを選びます。

A点灯　：背面のSPEAKERS A端子に接続されたスピーカーから音が出ます。
B点灯　：背面のSPEAKERS B端子に接続されたスピーカーから音が出ます。
A、B点灯：背面のSPEAKERS A端子とB端子に接続されたスピーカーから同時に音が出ます。
A、B消灯：スピーカーからは音が出ません。ヘッドホンを使うときなどに使用します。再生モードにかかわらずステレオ再生になります。

聴くスピーカーを点灯させる



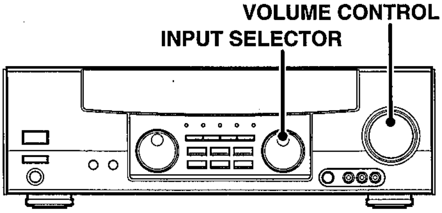
- サラウンドモード、またはDVD6チャンネルインプットモードにすると、スピーカーはAが選ばれます。
- PRE OUT端子を使用するときは、SPEAKER Aキーのみをオンにしてください。

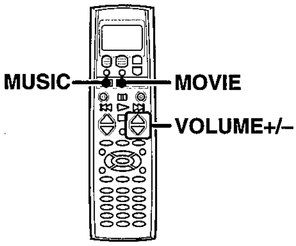
電源の入れかた

❶ 関連機器を接続し、電源をオンにする。

❷ POWERキーとON/STANDBYキー（SYS.POWER I/⏻ キー）を押して本機の電源をオンにする。

普通の再生





1 INPUT SELECTOR つまみ、MUSICキー、または MOVIEキーで聴きたいソースを選ぶ

次のように切り換わります。

INPUT SELECTORつまみで選ぶとき

① "PHONO"
② "TUNER"
③ "CD/DVD"
④ "TAPE"または"MD"
⑤ "VIDEO1"
⑥ "VIDEO2"
⑦ "VIDEO3"
⑧ "DVD/6ch"
⑨ "AV AUX"

MUSICキーで選ぶとき(リモコン)

① "CD/DVD"
② "TAPE"または"MD"
③ "TUNER"
④ "PHONO"

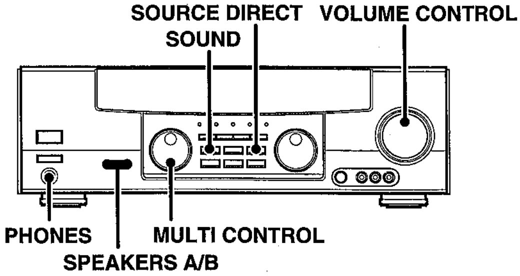
MOVIEキーで選ぶとき(リモコン)

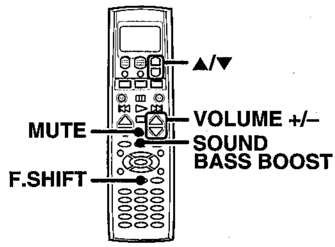
① "VIDEO1"
② "VIDEO2"
③ "VIDEO3"
④ "DVD/6ch"
⑤ "AV AUX"

2 選んだソースを再生する

3 VOLUME CONTROL (VOLUME +/–) で音量を調節する

音の調節のしかた





音質を調整する

ステレオモードのときに調節できます。

❶ SOUNDキーを押して、調節する音質を選ぶ

BASS ：低音域を調整するとき(SOUNDキーを1回押す)
TREB ：高音域を調整するとき(SOUNDキーを2回押す)



❷ MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使って音質を調節する

- 低音と高音のレベルは－10から＋10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 調整項目は約8秒間表示されます。

ワンタッチで低音域を強調する (バスブースト)

ステレオモードのときに調節できます。

F.SHIFTキーを押してからBASS BOOSTキーを押す

- 低音域を調整できる最大限(＋10)に設定されます。
- 音質や音場の調整モード中は使用できません。

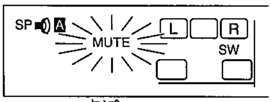
もとの状態にもどすには

もう一度BASS BOOSTキーを押します。

一時的に音を消す

スピーカーの音を一時的に消します。

MUTE キーを押す



点滅

解除するには

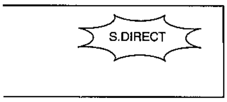
もう一度キーを押して"MUTE"表示を消灯させます。

- ボリュームの調整をしても解除されます。

ソースダイレクト再生をする（アナログ再生時のみ）

音質調整などの回路を経由しないで、シンプルな回路で音楽ソースをそのまま再生したいときに使います。

SOURCE DIRECTキーを押す



- LISTEN MODEキー、SOUNDキー、またはSETUPキーを押すか、入力を切り換えると、ソースダイレクト再生は解除されます。

解除するには

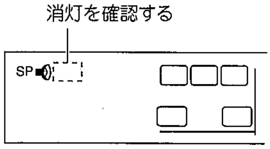
もう一度SOURCE DIRECTキーを押します

- サラウンドモード時に、ソースダイレクト再生を行ったときは、解除すると元のサラウンドモードに戻ります。

ヘッドホンで聴く

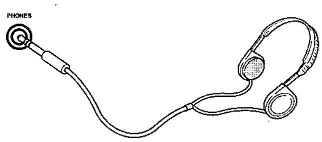
❶ **SPEAKERS A / Bキーを押してスピーカーA、B表示を消灯させる**

消灯を確認する



- サラウンドモード時にすべてのスピーカーをオフにすると、各モードは解除され、ステレオ再生になります。
- 6ch INPUTモードの場合は、スピーカーは解除できません。他のINPUTモードに切り換えてください。

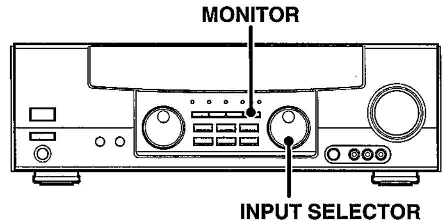
❷ **ヘッドホンをPHONES端子につなぐ**



❸ **VOLUME CONTROL（VOLUME+/—）で音量を調節する**

録音（録画）のしかた

録音のしかた（アナログソース）



音楽ソースを録音する

❶ **INPUT SELECTOR つまみで録音するソース（"MD/TAPE" 以外）を選ぶ**

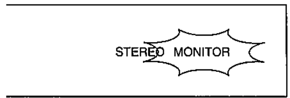
❷ **カセットデッキまたはMDレコーダーを録音待機状態にする**

❸ **ソースを再生し、録音を開始する**

テープからMDまたはテープに録音をする

MONITOR → MD/TAPEのとき

❶ **MONITORキーを押す**



❷ **INPUT SELECTORつまみで "MD/TAPE" 以外を選ぶ**

❸ **MONITOR端子に接続したカセットデッキを再生し、MD/TAPE端子 に接続したカセットデッキまたはMDレコーダーで録音を開始する**

MD/TAPE → MONITORのとき

❶ **INPUT SELECTORつまみで "MD/TAPE" を選ぶ**

❷ **MD/TAPE端子 に接続したカセットデッキを再生し、MONITOR端子に接続したカセットデッキまたはMDレコーダーで録音を開始する**

- ダブルデッキを使用してのテープコピーはダブルデッキの取扱説明書をお読みください。

MONITORについて（アナログ再生時のみ）

本機のMONITOR端子にはカセットデッキやグラフィックイコライザーなどを接続することができます。グラフィックイコライザーを接続したときは、MONITORキーをオンにしてご使用ください。また、3ヘッドシステムのカセットデッキがMONITOR端子に接続されているとき、録音中に今録音された音をモニターすることができます。MONITOR キーを切り換えることにより、ソースの音と録音された音を比較することができます。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

録画のしかた

❶ **入力切換で録画するソース（"VIDEO 1" 以外）を選ぶ**

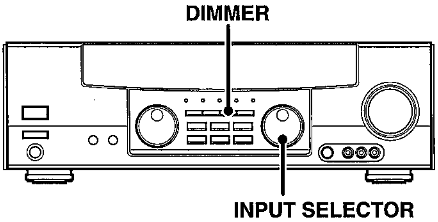
❷ **VIDEO 1に接続したビデオデッキを録画待機状態にする**

❸ **ソースを再生し、録画を開始する**

録音のしかた(デジタルソース)

デジタルソースには通常のステレオ信号以外にも、DTS、ドルビーデジタルなどマルチチャンネルの信号があります。本機をA-RECモードに設定すると、自動的にすべてのデジタルソースをステレオ2チャンネルにダウンミックスして、録音することができます。
ただし録音中にデジタル信号の種類が変わると、変わった最初の部分で音声がとぎれることがあります。その場合は本機をM-RECモードにします。
DTSに対応していない機器はDTS信号は出力されません。

A-RECモードで録音する



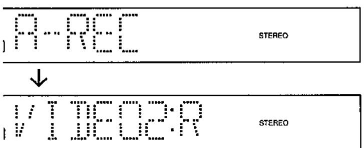
❶ **INPUT SELECTORつまみで録音するソース(CD、DVD、VIDEO2またはVIDEO3)を選ぶ**

❷ **カセットデッキまたはMDレコーダーを録音待機状態にする**

❸ **DIMMERキーを押してA-RECモードを選ぶ**

●2秒以上押します。2秒ごとにモードが変わります。

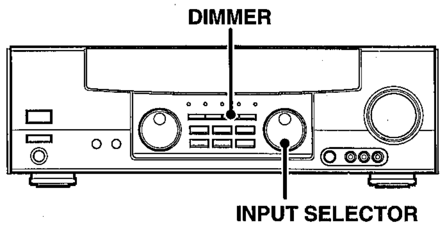
① RECモードオフ	：オフ
② A-RECモード	：デジタル信号(DTS、ドルビーデジタル、PCM)が自動的にステレオ信リモコン受光部号にダウンミックスされます。
③ M-RECモード	：本機で設定した信号のまま出力されます。



❹ **ソースを再生し、録音を開始する**

●音声が出力されないときはDIMMERキーを押します。

M-RECモードで録音する



❶ **INPUT SELECTORつまみで録音するソース(CD、DVD、VIDEO2またはVIDEO3)を選ぶ**

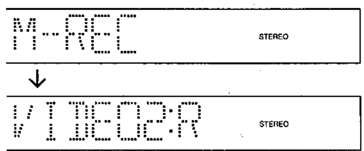
❷ **カセットデッキまたはMDレコーダーを録音待機状態にする**

❸ **ソースを再生する**

❹ **DIMMERキーを押してM-RECモードを選ぶ**

●2秒以上押します。2秒ごとにモードが変わります。

① RECモードオフ	：オフ
② A-RECモード	：デジタル信号が自動的にステレオ信号にダウンミックスされます。
③ M-RECモード	：本機で設定した信号のまま出力されます。

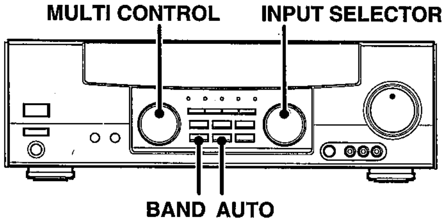


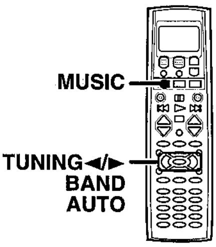
❺ **ソースを最初から再生し、録音を開始する**

●音声が出力されないときはDIMMERキーを押します。

放送局を最大40局まで記憶させ、ワンタッチで受信することもできます。

放送を受信する





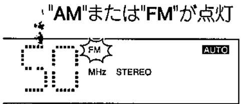
1 INPUT SELECTOR つまみまたは MUSICキーでチューナーを選ぶ

2 BANDキーで放送バンドを選ぶ

押すたびに切り換わります。

① FM
② AM

"AM"または"FM"が点灯

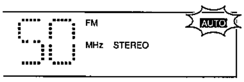


3 AUTOキーで選局方法を選ぶ

押すたびに切り換わります。

① AUTO点灯（オート選局）
② 消灯（マニュアル選局）

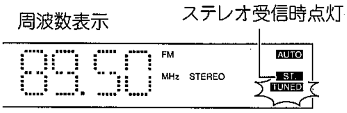
"AUTO"が点灯



- 通常は、"AUTO"（オート選局）にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。（マニュアル受信のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。）

4 MULTI CONTROLつまみ（TUNING ◀/▶キー）で放送局を選ぶ

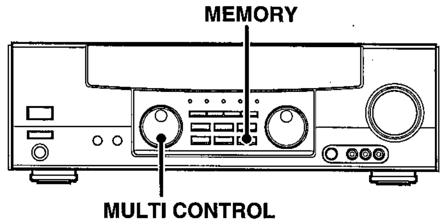
周波数表示　ステレオ受信時点灯



受信すると、"TUNED"が点灯

オート選局のとき　：自動的に次の放送局を受信します。
マニュアル選局のとき　：受信するまで回し（押し）ます。

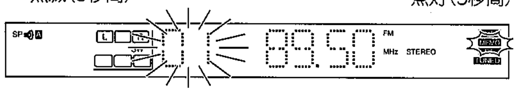
放送局を記憶させる



1 記憶させたい放送局を受信する

2 受信中にMEMORYキーを押す

点滅（5秒間）　点灯（5秒間）



5秒以内に手順3へ
（5秒以上たった場合はもう一度MEMORYキーを押します。）

3 MULTI CONTROLつまみを使って1〜40のプリセット番号を選ぶ

4 MEMORYキーを押して確定させる

- 1、2、3、4を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する



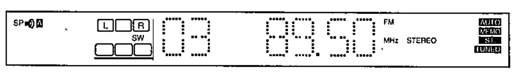
1 MUSICキーでチューナーを選ぶ

2 数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す（最大40）

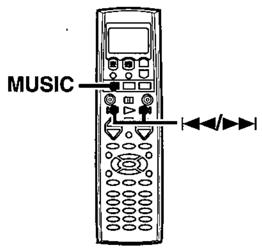
数字キーを押す順序は…

"15"なら… +10, 5
"20"なら… +10, +10, 0

- 10の桁を押し間違えたときは、+10キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。



記憶させた放送局を順に聴く(P.CALL)



1 MUSICキーでチューナーを選ぶ

2 I◀◀/▶▶Iキーで目的の放送局を選ぶ

●キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

▶▶Iキーを押すと
01→02→03→ .... 38→39→40→01→02→03→

I◀◀キーを押すと
01←02←03← .... 38←39←40←01←02←03←

押したままにすると......約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

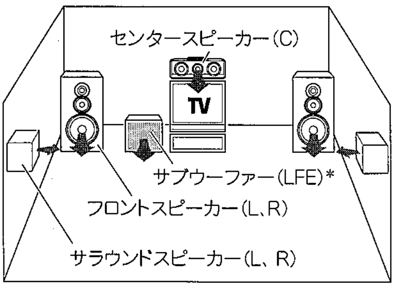
本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を完全に行ってください。

→17

サラウンドモードの種類

DTS(Digital Theater System)モード

DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dts マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音に厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサウンドが特長です。

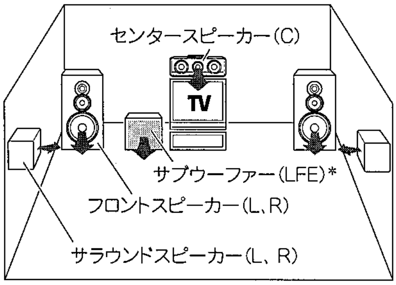


* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力しているときは、ディスプレイに "**LFE**" 表示が点灯します。

DOLBY DIGITAL (AC-3)サラウンドモード

ドルビーデジタル(AC-3)サラウンドモードでは、ドルビーデジタル(AC-3)プログラムソース(DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど)からの5.1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビー デジタル(AC-3)モードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミック域の面で、はるかに優れた効果を演出します。

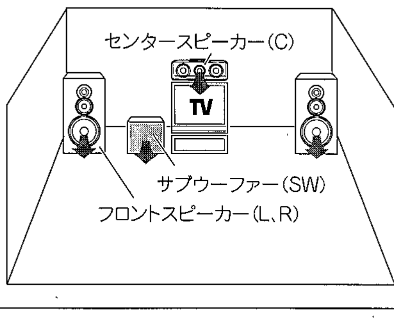
ご注意
5.1チャンネルのドルビーデジタル(AC-3)サラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、サラウンドスピーカー(左右)、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタル(AC-3)やドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。 →16



* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
ドルビーデジタル(AC-3)サウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。
このチャンネルが入力しているときは、ディスプレイに "**LFE**" 表示が点灯します。

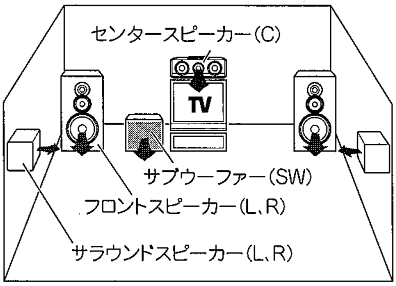
DOLBY 3 STEREOモード

ドルビー3ステレオは、サラウンドスピーカーを接続していないシステムのときに使用します。ドルビー3ステレオでは、サラウンド成分の音をフロントスピーカーに振り分けて再生します。このモードでは、ドルビーサラウンドプログラムソースで再生できるように設計されていますが、ドルビーサラウンドプログラムソースでないものにもお使いいただけます。このとき、セリフが聞こえる位置や、音の広がりかたなどの効果が薄いことがあります。



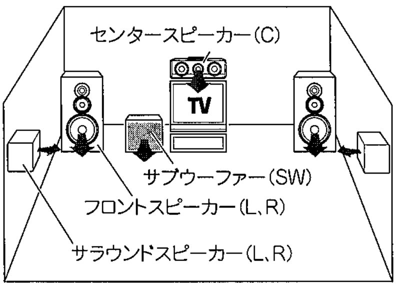
DOLBY PRO LOGIC サラウンドモード

ドルビープロロジックプログラムソースは、特別な方法で記録された2チャンネルのサラウンドフォーマットで、DOLBY SURROUNDマークの付いたビデオや、レーザーディスクソフトなどがあります。
ドルビープロロジックは、ドルビーサラウンドプログラムソースからの信号を加工して、映画館にいるようなサラウンド効果を再現するように設計されています。



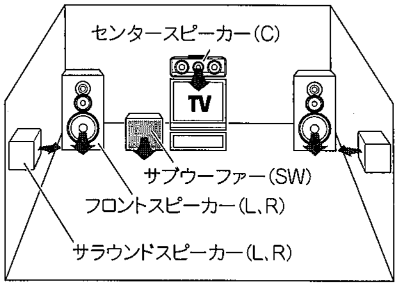
SRS Circle Surround(マルチチャンネル再生)モード

SRS Circle Surroundは、ステレオ2チャンネルのソースを、上記のサラウンドのように、マルチチャンネル再生をするシステムです。CDなど通常ステレオ2チャンネルのソースを、お手持ちのマルチスピーカー(フロント、センター、サラウンドスピーカーなど)で再生して楽しむことができます。



DSPモード

DSP(デジタルシグナルプロセッサー)サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤーやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

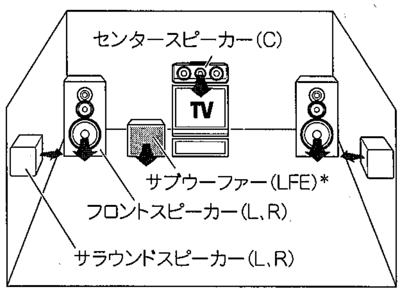


DSPについて

通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

DVD6チャンネルモード

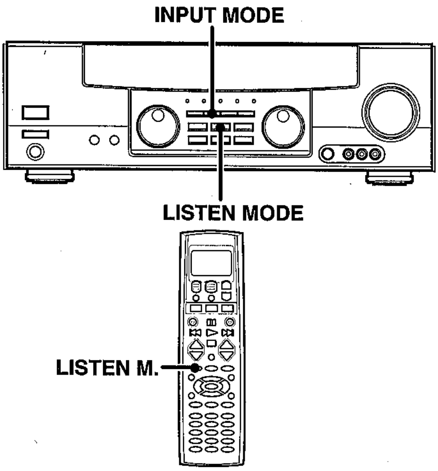
お手持ちのDVDプレーヤーがDVD6チャンネル出力に対応している場合は、DVD6チャンネル接続をすることによって、より効果的なサラウンドをお楽しみいただけます。



* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力しているときは、ディスプレイに "**LFE**" 表示が点灯します。

サラウンド再生

DOLBY DIGITAL(AC-3)は DOLBY DIGITAL マークの入ったLDソフト、DVDおよび、DOLBY DIGITAL(AC-3)フォーマットのデジタル放送などに有効です。DOLBY PRO LOGICまたはDOLBY 3 STEREOは DOLBY SURROUND マークの入ったビデオ(またはDVD、LD)ソフトの再生時に有効です。DTSは dts マークの入ったDVD、LDソフトの再生時に有効です。
Circle SurroundはCDなどの2チャンネルのソースをマルチチャンネルで再生します。



準備しましょう

- 使用する関連機器の電源ををオンにする。
- サラウンド再生の準備をする(スピーカーの設定をする)。→17
- 再生したい入力ソースを選ぶ。
- INPUT MODEキーを使用して、再生したいソースのインプットモード(アナログまたはデジタル)を選ぶ。→12
- INPUT MODEをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

1 ビデオソフトを再生する

2 LISTEN MODE(LISTEN M.)キーを押してリッスンモードを選ぶ

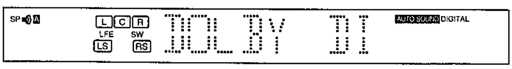
リッスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。入力信号の種類(DOLBY DIGITAL、DTSなど)、インプットモードの設定や設定したスピーカーのタイプにより選べるモードが変わります。

押すたびに切り換わります。
このとき、以下のリッスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選べます。

DOLBY DIGITAL信号を入力しているとき(DOLBY DIGITAL、PRO LOGIC、または3 STEREO表示が点灯)

①**DOLBY DIGITAL:** DOLBY DIGITALサラウンド
②**PRO LOGIC:** PRO LOGICサラウンド
③**3 STEREO:** 3 STEREOサラウンド
④**CS:** CS 5.1サラウンド
⑤**STEREO:** 通常のステレオ再生

DOLBY DIGITDALを選んだとき



DTS信号を入力しているとき(DTS表示が点灯)

①**DTS:** DTSサラウンド
②**STEREO:** 通常のステレオ再生

DOLBY DIGITAL、DTS以外のデジタル信号またはアナログ信号のとき

①**PRO LOGIC:** PRO LOGICサラウンド(PRO LOGIC表示が点灯)
②**3 STEREO:** 3 STEREOサラウンド(3 STEREO表示が点灯)
③**CIRCLE SURROUND:** CS 5.1サラウンド(CS 5.1表示が点灯)
④**ARENA:** DSPサラウンド
⑤**JAZZ CLUB:** DSPサラウンド
⑥**THEATER:** DSPサラウンド
⑦**STEREO:** 通常のステレオ再生

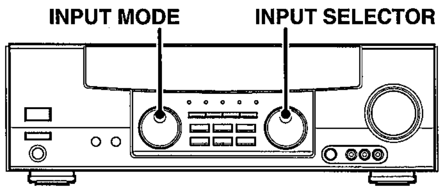
- ドルビーデジタル5.1チャンネル入力信号を、ステレオモードで再生するときは、ディスプレイの**DOWN MIX**インジケーターが点灯し、ダウンミックスされます。

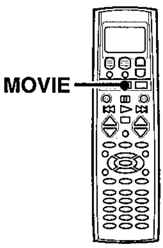
3 音量を調節する

ご注意
- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードもあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。
- ドルビーデジタル(AC-3)サラウンドはもちろん、ひとつの機器ですべてのリッスンモードを楽しみたいときは、ドルビーデジタル(AC-3)フォーマットに対応した再生機器をご使用ください。このとき、ドルビーデジタル(AC-3)フォーマットのオーディオデジタル信号は、**デジタル入力**端子へ、通常のオーディオ信号は**オーディオ入力**端子へ正しく接続してください。 →10 →11 →12 →13

DVD6チャンネル再生

DTS CDなどのDOLBY DIGITAL (AC-3) 以外のソースを再生する場合、音がでなかったり、ノイズがでることがあります。この場合DVD6チャンネル再生をすることで、的確にサラウンド音声を再生することができます。





準備しましょう

- お手持ちのDVDプレーヤーとDVD6チャンネル接続をする。 →11
- 使用する関連機器の電源ををオンにする。
- サラウンド再生の準備をする。 →17

1 INPUT SELECTOR つまみまたはMOVIEキーでDVD/6chを選ぶ

DVD/6chを選んだときにスピーカーBが選ばれているときは自動的にスピーカーBをオフにし、スピーカーAがオンになります。

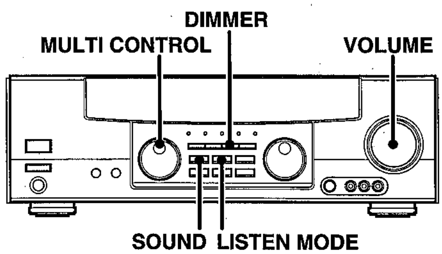
2 INPUT MODEキーで6ch INPT を選ぶ →12

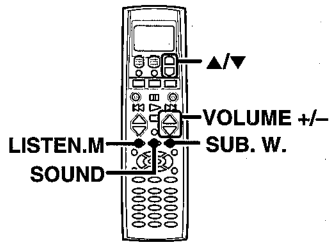
3 DVDプレーヤーを再生する

4 音量を調節する

- 各スピーカーの音量はDVDプレーヤーで調節します。サブウーファーはサブウーファーの音量調節つまみなどで音量を調節します。

便利な機能





音を調整するには

再生中にお好みで音を調整することができます。

❶ SOUNDキーを押して調整したい項目を表示させる

押すたびに切り換わります。
このとき、モードによっては表示されない項目があります。

- ①BASS（低音域の音質調整） →19
- ②TREB（高音域の音質調整） →19
- ③Cch（センタースピーカーレベルの調整）
- ④RS（サラウンド右スピーカーレベルの調整）
- ⑤LS（サラウンド左スピーカーレベルの調整）
- ⑥SW（サブウーファーレベルの調整）
- ⑦INPUT（インプットレベルの調整） →18
- ⑧NIGHT（ミッドナイトモードのオン／オフ） →28
- ⑨CINEMA/MUSIC（サークルサラウンドモードの選択） →28

❷ MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってレベルを調節する

- 調整項目は約8秒間表示されます。

ミッドナイトモード(ドルビーデジタル(AC-3)モードのみ)

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、ドルビーデジタル(AC-3)の映像ソフトであらかじめ指定されている部分(急に音量が大きくなるシーンなど)だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ SOUNDキーを数回押して "NIGHT" を表示させる

- CD/DVD、VIDEO 2またはVIDEO 3の入力で、サラウンドモードがAC3のときのみ選べます。

❷ MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使ってオン／オフを選ぶ



- 調整項目は約8秒間表示されます。
- ドルビーデジタル(AC-3)の映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

サークルサラウンドモード

ステレオ2チャンネルのソースをマルチチャンネル(サークルサラウンド)で楽しむときに、ソースの種類によって、最適な再生モードを簡単に選ぶことができます。

❶ LISTEN MODE(LISTEN M.)キーを数回押して "CIRCLE SURROUND" を表示させる

❷ SOUNDキーを数回押して "CINEMA/MUSIC" を表示させる

❸ MULTI CONTROLつまみ、または▲/▼キーを使って "CINEMA"(映画など) または"MUSIC" (音楽など)を選ぶ

サブウーファーの調節

リモコンで簡単にサブウーファーの音量を調節することができます。

❶ SUB W.キーを押して "SW" を表示させる



❷ VOLUME(VOLUME +/-)を使ってレベルを調節する

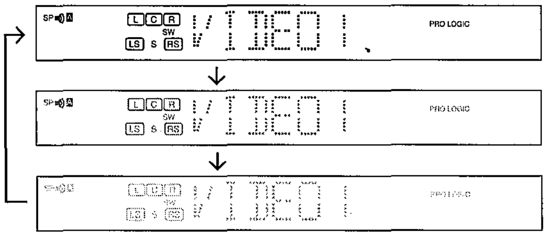
- −10dB〜＋10dBの範囲で調節できます。

ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

DIMMERキーを押すたびに3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。

リモコンで操作する場合は、F.SHIFTキーを押してからDIMMERキーを押します。



96kHz LPCMの再生

96kHz LPCMに対応しています。
96kHz DVDをお聞きになる場合はリッスンモードを"STEREO"にしてください。

- 表示部に96kHzと表示された場合はLISTEN MODEキーを押してください。(STEREOモードに切り換わります。)

故障と思われる症状ですが・・・・

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントに差し込んだままで、POWERキーをオフにして、ON/STANDBYキーを押しながら、POWERキーをオンにする。

- リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●MUTEがオンになっている。 ●スピーカースイッチがオフになっている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 →15 ●適当な音量にする。 ●MUTEをオフにする。 →20 ●スピーカースイッチをオンにする。 →18
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●一時 電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度 電源スイッチを入れる。
スピーカーの片側から音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ●サラウンドモードになっていない。 ●サラウンドレベル、およびセンターレベルが最小になっている。	●"接続のしかた"を見て正しく接続し直す。 ●サラウンドモードにする。 ●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。 →17
入力切換キーをPHONOにすると、ブーンという音が出る。	●プレーヤーのオーディオコードがPHONO端子にしっかりと差し込まれていない。 ●プレーヤーのアース線が接続されていない。	●オーディオコードをPHONO端子に完全に差し込む。 ●アース線を背面のGND端子に接続する。
DVDプレーヤーでドルビーデジタル(AC-3)のソースの再生を始めると最初の音が切れる。	●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。	●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。 →12
DVDを再生しても、音が出ない。	●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。	●INPUT MODEキーを押して、デジタルオートを選ぶ。 →12
ビデオ入力からの録画ができない。	●コピープロテクトがかかっている。	●コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。

チューナー部

症 状	原 因	処 置
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。 →13 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。 →22
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。

定格

⚠ このページは安全確保のために必ずお読みください。

オーディオ部

ステレオ モード
定格出力(EIAJ) .... 75 W + 75 W (40 Hz ~ 20 kHz、0.7%、4 Ω)
実用最大出力 .... 125 W + 125 W(EIAJ、4 Ω)
サラウンドモード(1ch動作時)
最大出力
フロント .... 120 W + 120 W(1 kHz、10%、4 Ω)
センター .... 120 W(1 kHz、10%、4 Ω)
サラウンド .... 120 W + 120 W(1 kHz、10%、4 Ω)
全高調波歪率 .... 0.055%(1 kHz、50 W、4 Ω)
周波数特性(IHF'78)
CD .... (13 Hz ~ 53 kHz)+ 0 dB ~ -3 dB
SN比
PHONO(MM) .... 75 dB(IHF'66)
CD .... 91 dB(IHF'66)
入力端子(感度/インピーダンス)
PHONO(MM) .... 2.5 mV / 47 kΩ
CD .... 200 mV / 47 kΩ
出力端子(レベル/インピーダンス)
TAPE REC .... 200 mV / 10 kΩ
プリアウト (フロントL、R) .... 1 V / 1 kΩ
(センター・サラウンド) .... 1 V / 1 kΩ
(サブウーファー) .... 2 V / 2 kΩ
トーン コントロール特性
BASS .... ±10 dB(100 Hz)
TREBLE .... ±10 dB(10 kHz)

デジタル部

対応サンプリング周波数 .... 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz
入力端子(感度/インピーダンス/波長)
オプチカル .... (-15 dBm ~ -21 dBm)660 nm ±30 nm
コアキシャル .... 0.5 Vp-p / 75 Ω

ビデオ部

入力端子(感度/インピーダンス)
VIDEO(コンポジット) .... 1 Vp-p / 75 Ω
S VIDEO(Y-シグナル) .... 1 Vp-p / 75 Ω
S VIDEO(C-シグナル) .... 0.286 Vp-p / 75 Ω
出力端子(レベル/インピーダンス)
VIDEO(コンポジット) .... 1 Vp-p / 75 Ω
S VIDEO(Y-シグナル) .... 1 Vp-p / 75 Ω
S VIDEO(C-シグナル) .... 0.286 Vp-p / 75 Ω

FM チューナー部

受信周波数範囲 .... 76 MHz~90 MHz
アンテナインピーダンス .... 75 Ω不平衡
実用感度(モノラル75 Ω) .... 1.6 μV/ 15.2 dBf (75 kHz DEV. SINAD 30 dB)
高調波ひずみ率(1 kHz)
モノラル .... 0.3 %
ステレオ .... 0.7 %
SN比
モノラル .... 75 dB (65 dBf 入力時)
ステレオ .... 68 dB (65 dBf 入力時)
実効選択度 (±400 kHz) .... 50 dB
ステレオセパレーション(1 kHz) .... 36 dB
周波数特性 .... (30 Hz~15kHz)+0.5 dB ~ 3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 .... 531 kHz~1,602 kHz
実用感度(30%mod.、S/N 20 dB) .... 18 μV / (600 μV/m)
SN比(30%mod.、1 mVインプット)
モノラル .... 48 dB
ステレオ .... 38 dB
ステレオセパレーション .... 30 dB

電源部・その他

定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示) .... 215 W
ACコンセント
連動コンセント .... 2(最大合計200 W)
最大外形寸法 .... 幅 : 440 mm
高さ : 143 mm
奥行 : 400 mm
重量(正味) .... 7.2 kg

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約3日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- パワーの状態
- 入力切換の設定
- デバイスプリセット
- 映像出力
- スピーカーオン/オフ
- ボリュームの値
- BASS、TREBLE、INPUTレベル
- サブウーファーオン/オフ
- DIMMERレベル
- モニターオン/オフ
- MD/TAPE選択モード
- 6CH/2CH入力切り換え
- リッスンモードの設定
- スピーカーセットアップの内容
- インプットモードの設定
- ミッドナイトモードの設定
- 受信バンド
- 周波数
- プリセット放送局
- 受信方法

ご注意
1.これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2.極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

保証とアフターサービス　(必ずお読みください)

保証書(別途添付)

この製品には、保証書を（別途）添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションへお問い合わせください。
(お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください)

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
この期間は、通省産業省の指導によるものです。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器に製造シリアル番号がつけられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」に従って調べていただき、なお異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションが修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号(Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み（有料修理の場合は、つぎの料金をいただきます）

- 技術料:
  故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費や、一般管理費等が含まれます。
- 部品代:
  修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料:
  製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
  別途、駐車料金および通行料金をいただく場合があります。

お買上げ店名

電話（　　　）　　－

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
〒150-8501　東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

● 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
お客様相談室（東京）電話（03）3477-5335　〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9
（大阪）電話（06）6357-5335　〒534-0024 大阪市都島区東野田町 1-20-5（大阪京橋第一生命ビル）
● アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッドサービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスセンター、サービスステーション、サービススポットにご相談ください。